



覚悟を生きる

Reasons To Live

永田円了

人はどのように自分の人生と向き合えばいいのか。作家・伊集院静は言った、「人はそれぞれ事情をかかえ、平然と生きている」と。そのように平然と生きて行けるのは、そこに何らかの覚悟があるからであろう。

覚悟とは、あきらめること、－「明らかに究めること」、事実を正面から受け止めることである。太陽の光を一点に集中させ、じっと固定していると焦げ目ができ、紙がにわか燃え出す。焦点がぶれては、こうはならない。人生も焦点を定めて生きないと、ただ拡散し、何の結晶も得ぬままに終わってしまう。

覚悟を生きるとは

覚悟の俳優・中井貴一： 往年の俳優・佐田啓二を父にもつ中井貴一（53歳）。いま最も成熟した、旬な俳優の1人である。3歳の誕生日を目前にして、交通事故で父を亡くす、父、享年37歳。人見知り強く、父親と同じ俳優の仕事は絶対ムリと思っていた。しかし父親の17回忌の法要の際にスカウトされ俳優の道に進むことに。

1990年、相米慎二監督作品「東京上空いらっしゃいませ」に出演、「考える演技から感じる演技」に開眼する。この体験がなければ、いまの中井貴一はなかった。

2014年上映の「柘榴坂の仇討ち」では、覚悟をもって生きる彦根藩士・志村金吾役を演じる。時は明治維新、忠義を重んじる武士の考えと新しい時代の空気がぶつかり合う。忠義と明治の生き方の狭間で、ギリギリまで追い込まれた金吾、いままでの覚悟を刷新して新しい生き方を選択する覚悟に身を投じる。

武士の殻を破るためには、ただ理屈で考えても行動は伴わない。何かはじけるような衝動、「ああ！ ということなのか！」というような、Aha-体験が金吾の覚悟を変える

生物学者ダーウィンは『種の起源』の中で、evolution（進化）ではなく、descent with modification（突然の変化）という単語を使っている。時代の大きな変化を生き抜くためには、じわりとその変化に順応するのではなく、パッとほじけるように、一挙に心身を刷新しなければならない。その原動力が覚悟である。



山口百恵の覚悟： 1972年、オーディション番組『スター誕生』で準優勝。審査員の阿久悠から、「あなたは青春ドラマの妹役ならいいけど、歌手は諦めたほうがいい」と言われる。しかしその後ブレイク、シングルレコード累計1630万枚、LPの累計434万枚を売り上げ、歌姫の頂点にのぼり着く。

その最中、『伊豆の踊子』で共演した、三浦友和との結婚を決意、1980年日本武道館でのラストコンサートを最後に7年間の歌手生活に終止符を打ち、表舞台から去る。山口百恵、21歳の覚悟であった。

覚悟は人を感動させる。覚悟は生きる目的を明らかにしてくれる。

<事例 DVD>

山口百恵さよならコンサート 1980年日本武道館
 中井貴一／俳優という名の男たち～父の背中を見つめて
 Switch Interview 中井貴一 vs. 糸井重里 ／覚悟を生きる知恵満載
 映画「ビルマの罅罅」より／水島上等兵の覚悟／中井貴一のセリフ無し演技
 映画「柘榴坂の仇討ち」 覚悟を生きる武士の美しさ、しなやかさ
 歌・山口百恵／ This is my trial. 私のゴールは、数えきれない人達の胸じゃない

円了のホームページ: www.enryo.jp

